

糸魚川市駅北まちづくり会議 第8回実践会議 記録

日時	令和3年2月19日（金）18：30～20：00	会場	駅北広場キターレ
進行	1 開 会 2 あいさつ 3 活動報告等 （1）実践活動の状況と今後の見通し （2）新年度の推進体制等について （3）その他 4 連絡事項等 5 閉 会		
出席者	日本料理鶴来家 専務取締役 青木 資甫子 花重 磯貝 正子 株式会社カネタ建設 代表取締役 猪又直登 ペンション・クルー 代表 岩崎 智（オンライン参加） 有限会社二葉デンキ 代表取締役 加藤 康太郎 EKIKITA WORKS 幹事長 木島 嵩善 BASE968 取締役 小出 薫 加賀の井酒造株式会社 第18代蔵元 小林 大祐（オンライン参加） おもちや木の子 代表 齊藤 里沙 まちづくりらぼ 副代表 野村 祐太 リノベーションスクール@いといがわ 企画者 藤岡 あかね EKIKITA WORKS 代表 本間 寛道 リノベーションスクール@糸魚川 企画者 松木 美沙子 株式会社清耕園ファーム 横井 藍 外部アドバイザー 西村 浩（座長）（オンライン参加）		
会議概要			
1 開 会 2 あいさつ（座長） 本日はオンライン参加。コロナ禍で人の移動に制限がかかっており、少しずつ、新しい暮らし方等を考えなければならない。まだ、世界中の人々が答えははっきり出せていないが、思考錯誤を繰り返してきた1年だった。これから豊かに暮らせる方法を探していければと考えている。 今日、次年度以降のスタートとして、今年度の活動発表を聞かせてもらい、意見交換ができればと考えている。			
3 議 題 （1）実践活動の状況と今後の見通し =活動報告=（まちなかアソビバ、まちなかプライド） （委員①）まちなかアソビバについて、いろいろ遊んで帰れる場所を作ってきた。子育て部会でやりたいねと話していた「おさがり交換会」が実現し、参加者からも好評だった。さらに			

私も手伝いたいという人が現れて嬉しかった。来年度はネットワークを広げて、自分たちの子育てがもっと楽しくなるように活動したい。

(委員②) まちなかプライドについて、駅北大火後にミライトというイルミネーションの活動を進めており、今回も多くの人からご来場いただいた。今年の特色としては、4人の高校生によるイルミネーションデザイン企画、地域の園児や小学生からのランプシェード等の参加、フォトコンテストでは約100枚のすばらしい写真が集まった。来年度に向けて、降雪によるLEDライトの損傷や準備する人手不足などが課題となっている。令和3年度は大火からの5年という節目の年なので想いを込めて開催したい。

(座長) まちなかアソビバについて、手伝いたいというお母さんが出てきたことが良い。他のまちで、「出かける場所は、子ども達の楽しい日常とお母さんの非日常が同時存在できるところが、居心地がいい。」と言っていたのを聞いたことがある。子ども達の楽しい日常でありながらも、お母さんには、日頃と違った体験や気づきなどがある場所が求められていると感じた。そのような環境がアソビバにあって、そこに関わることで、自分の生活が豊かになっていくと気づいた人が協力してくれるようになったのではないかと思うし、これからも輪を広げてほしい。まちなかプライドについては、年々規模が大きくなっており、園児や小学生、高校生が関わってくれたことは、将来の実践者に向けた準備となる。少しずつ、まちの一人ひとり、一軒一軒が協力してくれることを積み上げていければなお良い。

＝活動報告＝（まちなかミニ農園、小さなマルシェ、地産地消に関する事業連携）

(委員③) 地産地消の実践活動について、生産者と消費者が関わる場づくりとして、ミニ農園に見立てたコンテナ栽培を企画した。コンテナへの苗植え後は、LINE等のSNSを活用して参加者と生産者でグループをつくり、栽培指導を実施した。色々な資源をフル活用して何かできないか考えたい。小さなマルシェについて、続けていくことで出店者と参加者が定着してきているが、売上が伸び悩んでいる。売上だけでなく価値（楽しさ）を作っていくことが継続につながるのではないかと考えており工夫していきたい。

(委員④) 地産地消部会の縁で、酒蔵の麴づくりを体験させてもらった。いろいろな地産地消の取り組みがあるが、加賀の井さんの麴を使って、鶴来家で地域の小さな事業連携を進めてみたい。これまでの歴史文化を踏まえ、駅北の魅力をあげ、まちのストーリーを増やして、まちを元気にしたいし、皆さんからも応援いただきたい。

(委員⑤) ちょっとしたきっかけから始まった。酒造の過程で副産物等を利用する取り組みで、少しずつ育てたい。

(委員⑥) ミニ農園をまちなかでおこなう苦労もあるが、イベント的に植えて、その後は家で育てる形とした。直接的な関わりは少なかったけど、SNSを活用した今回の形を継続できると良いと感じた。

(座長) コロナ禍で人が集まることがためられるが、気を付けながら実施していくしかない。地産地消の事業連携について、発酵文化の麴はいろいろな分野に展開していけるので、いろいろな人の知恵をくっつけてほしい。「地産地消の良さ」とは何かをよく考える必要があって、例えば「おさがり」も地産地消。何が言いたいかというと、近い距離（対面）で物に関

する物語を伝えていけることが、地域にとって大事だと感じている。小さなマルシェは毎週やっているけど認知度も上がっているのではないか。

(委員⑥) 小さなマルシェは、30 回程度の開催。野菜は春から秋までは地域の方々が多く来場し、出したものもほぼ売れているように見受けられる。

(座長) 毎週土曜日を定期的にやっていくことが日常につながると思う。日によっていろいろあると思うけど継続してもらいたい。ミニ農園について、子ども達の楽しそうな姿が見える。自分が育てた野菜とお店で売っている農家さんが作った野菜と比べたりするのではないか。継続によって農業に対する意識も変わってくると感じている。

=活動報告=(まちなか健康体操)

(委員⑦) 毎週火曜日にキターレを会場にGEO体操の運動教室を開催してきた。

(市) 平成 28 年度にGEO体操を作ったがなかなか普及しなかった経過がある。70, 80 歳代の6人の握力測定、片足立ち、タッチアンドゴー、体前屈の4つの測定結果をグラフにした。結果としては、良くなったように見えるが、体力の維持プラスアルファ程度と見てもらいたい。参加者の感想としては「歩くのが楽になった」「買い物に行けるようになった」「みんなに会える週1回の体操が楽しみ」という声が聞こえた。参加継続の理由は、身近な場所での開催、動機となる目標(身体機能の低下しないこと等)や体力測定(張り合い等)ではないかと考えている。

今後の改善点として、教室のまとめ役の存在の確保、連携による効果等がわかりやすいGEO体操のDVD修正等。1週間以上、体操ができない状態の時に、参加者の足がふらつく様子だったので、定期的に開催していくことが大事と感じている。参加者に効果がでていて、市内では駅北をモデルに2地区がGEO体操を新たに始めたことも良い影響と考えている。

(委員⑦) キターレの担当者から、「来年度以降も高齢者がはつらつと体操ができる健康の場を作っていき、家でやる体操とは違うことを実現したい。また、健康づくりセンターハピネスに行くことなども企画してみたい。」と伝言を預かっている。引き続き、頑張りたい。

(委員⑧) 継続していけば糸魚川も変わるのではないかと期待したい。若い力で高齢者を引っ張ってもらいたい。

(委員⑨) 健康体操の参加者が増えていき、健康になった状況を数字にしていくことで、介護保険料にも好影響と見せることができれば、参加者の意識やそれを見た若い人たちの意識も変えていけるのではないか。

(座長) 高齢者の6人が楽しくやっているようであれば、友達をどんどん呼んでもらえるといいと思う。体操の後が楽しいということも場所としていいなと思う。ここだけでなく、会議の前などに体操をするような習慣化が大事でないか。体操を含めて日常を作るというパターンをしっかり作っていく。やり続けていくこと(習慣化)が暮らしを豊かにしていく。

(2) 新年度の推進体制等について

(座長) 2年半前の市民会議から活動を進めて、このような形になってきた。市民の皆さん

がミーティング等の場を大事に使っていくことが重要。ミーティングの役割について、1番目が全体検証、2番目が全体の発表会、3番目が勉強会。マネージャーにお願いしたいのは、3の勉強会に、毎回、新しいニューカマーを1～3人程度発掘してくるということを決めてやったほうがいい。そうすることで輪も広がり、マネージャーの皆さんの糧にもなる。糸魚川の将来像のイラストは名刺に活用したり、マネージャーの写真のように、「糸魚川いい感じだね」と思わせることが大事。

4 連絡事項等

(事務局)

- ・推進補助金について
- ・ふるさと納税制度の登録等について

(委員⑩)

- ・空き家の祭典の開催について

(座長) 2年間にわたって市民の皆さんの頑張りがここにまとまった。4月からまたデザインミーティングという次のフェーズに移るというので楽しみにしています。ありがとうございました。

5 閉会